挨　　拶



東レ科学振興会　会　長　　日　覺　昭　廣

本日、ここに令和 7 年度東レ科学振興会贈呈式を挙行するにあたり、文部科学省研究振興局局長の淵上孝様、日本学士院長の野依良治様をはじめとするご来賓の皆様には、ご多忙のなかご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。

私たちが直面している世界情勢は、極めて不透明かつ不安定です。地政学的緊張や供給網の揺らぎなど不確実性が重なるなか、重要原材料の確保やサプライチェーンの管理は研究開発にも影響を及ぼし得る状況となっています。また、研究環境の DX や『AI for Science』の進展は、政府の次期基本計画においても重要な論点として位置づけられ、国家の重要課題として議論が進められていることは、広く共有されているところです。これらは単なる効率化にとどまらず研究の進め方そのものを変えるインパクトがあります。気候変動、エネルギー、健康に加え、人口減少・少子高齢化など解くべき課題は一層複雑化しています。こうした時代においてこそ、科学は『分断を超える共通言語』でなければなりません。流行や政治的思惑に左右されない『普遍的な真理』を追究する基礎科学の厚みが、国家のレジリエンス（強靭性）を左右します。短期的な効率性のみを追うのではなく、揺るぎない知の基盤を蓄積することが重要であると考えます。人類が豊かさを維持し、成長と発展を続けていくためには、今後も科学技術イノベーションを生み出し続けることが不可欠であり、その源泉となる基礎研究の重要性は、ますます高まっていると考えます。パンデミックの試練を経て、かつての活気ある規模で知の権威が一堂に会する本日の光景は、単なる式典の再開にとどまりません。分断が進む不安定な世界において、日本の知のネットワークの連帯を象徴する場であると考えます。

私ども東レ科学振興会は、1960 年設立以来、66 年にわたり日本の科学技術振興の礎となるべく歩んでまいりました。ご承知のとおり、当財団の表彰・助成等の支援にゆかりのある方から、これまで 6 名の先生方がノーベル賞を受賞しておられます。この半世紀以上にわたりまして、私どもの社会貢献事業が滞りなく継続できておりますのは、ひとえに、関係の皆様方の温かいご指導とご支援の賜物でございます。ここに改めて深く感謝申し上げます。

さて、今年度の東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成につきましては、学協会あるいは推薦人の先生方から多数の候補者のご推薦をいただきまして、岩井一宏先生を委員長とする選考委員会で、公正かつ厳正な選考が行われました。財団の理事会は、選考委員会の答申どおり、東レ科学技術賞を山形俊男博士並びに須田年生博士に、また、東レ科学技術研究助成につきましては、10 件の研究に対しまして、総額 1 億 3,000 万円の助成金を贈呈することに決定いたしました。科学技術賞を受賞されますお二人の先生ならびにご令室および関係者の皆様に対しまして、心からお祝いを申し上げます。また、研究助成を受けられます先生方には、今後とも立派な研究成果を挙げられますよう大いに期待申し上げたいと思います。

次に、当財団は、中学校・高等学校等の現場で創意工夫をして理科教育に取り組んでおられる先生方の顕彰事業を行っております。この東レ理科教育賞の選考に当たりましては、豊田真司先

生を委員長とする審査委員会で、公正かつ厳正な審査が行われました。私ども理事会は、審査委員会の答申どおり、東レ理科教育賞文部科学大臣賞を浅見拓真先生に、そして東レ理科教育賞を 2 人の先生方に、さらに、佳作 3 件と奨励作 2 件を贈呈することを決定いたしました。また、令和 2 年に新設した理科教育賞・企画賞については、6 名の先生方に賞を贈呈することを決定しました。理科教育賞を受賞されます 3 人の先生方ならびにご家族に対しまして、また、佳作、奨励作を受賞されます 5 人の先生方に、そして企画賞を受賞されます 6 人の先生方に、心からお祝いを申し上げます。今後とも一層のご研鑽を積まれ、我が国の将来を担う青少年の育成にご尽力いただきますようお願い申し上げたいと思います。選考、審査の労をとっていただきました委員の先生方には、この場をお借りして、改めて厚く御礼申し上げます。

1993 年から 1994 年にかけて、我が国産業界が様々な事業活動を展開しております東南アジアの地に、東レ株式会社が約 6 億円を拠出して、インドネシア東レ科学振興財団、マレーシア東レ科学振興財団、タイ東レ科学振興財団を設立しました。これらの財団は私どもの日本の財団と同じように、科学技術研究の助成事業、そして科学技術賞・理科教育賞といった顕彰事業を行っており、各国の科学技術分野の研究開発の発展に重要な役割を果たしていると評価されています。私どもの財団は、この 3 ヶ国の財団に募集・選考を委嘱し、今年度も 27 件の研究に研究助成金を贈呈しました。

最後になりますが、今年度も、東レグループを代表して、東レ株式会社から、合計 2 億 1,800 万円の拠出をしていただいております。東レグループ創立以来脈々と受け継がれている、企業の成果を社会へ還元し、研究と教育という「知の基盤」を支えて社会に貢献するという高い志に、改めて敬意を表しますとともに、厚く御礼を申し上げます。

本日受賞・採択された皆様が、科学の力で未知の課題に挑み続け、社会に新たな希望と選択肢をもたらしてくださることを祈念し、私の挨拶とさせていただきます。本日は誠におめでとうございます。